



ぎおんぼら

学校教育目標
響き合い、輝かし合いなが
ら、共によりよく生きよう
とする子どもの育成

令和2年1月27日発行 発行者：谷田部 二三子

後期も後半に入りました。この期間は、今年度のまとめであり、来年度への準備期間でもあります。特に、6年生は、中学校に向けての大事な期間です。そこで、12月25日の冬休み前の全校集会では、「一日の計は朝にあり。一年の計は元旦にあり」何事もはじめに計画を立てるのが大事であると話しました。お子さんは、どんな目標、計画を立てたでしょうか。「早起きして、登校班の時間に遅れない」という目標を立てて、毎朝、頑張っている子がいます。応援しています。

学校教育診断の結果について

11月に実施した「学校教育診断」の結果をお知らせします。保護者の皆様には、お忙しい中、アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。

回収率	児童：99.7%	保護者：93.8%
達成度	$\{(Aの回答数 \times 3 + Bの回答数 \times 2 + Cの回答数 \times 1 + Dの回答数 \times 0) \div (回答数 \times 3)\} \times 100$	
	A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない	

①子どもは、学校で楽しく、安心して過ごしている。

児童は、昨年度より約4%下がりました。肯定的な回答の理由を見ると、児童にとって学校が楽しいかどうかは、やはり友達とうまくいっているかどうか大きいようです。学校生活のほとんどの時間を過ごす学級が、誰にとっても楽しく安心して過ごせるものとなるよう、これからも授業や生活の中で、互いに思いやり助け合う関係が深まるような機会を作っていきたいと思います。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	226	76	31	7	84.4	88.5
保護者	223	82	12	2	88.3	89.4

②子どもは、学校でいろいろできるようになったことで、自信をもって過ごしている。

児童は、昨年度より約5%下がりました。肯定的な回答をした児童からは、「先生や友達が励ましてくれる。ほめてくれる。」「手をあげて発表する回数が増えた。〇〇ができるようになった。」といった意見が出されました。周囲の人からの受容・称賛や、成就感・達成感などが自己肯定感につながっているようです。今後も、そのような関わりを増やしていきたいと思います。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	192	103	37	10	79.8	85.1
保護者	155	139	24	1	80.1	83.8

③学校は、子どもが明るく元気に活動できる、望ましい教育環境づくりを行っている。

児童・保護者とも下がりました。肯定的な回答をした児童からは「校庭が広い。」「様々な教材や遊具がある。」などの意見が出されました。今後も、学習効果が上がるような教材を充実させると共に、施設・設備の早期の修繕、改善に努めてまいります。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	241	78	20	2	87.9	91.6
保護者	180	122	16	1	83.6	88.1

④教師は、子どもの話をよく聞いて、指導している。

児童・保護者とも下がりました。「優しく相談に乗ってくれる。」「最後まで話を聞いてくれる。」といった肯定的意見のほかに、「あまり相談しない。」という回答もありました。日頃より受容や共感する姿勢で児童に接し、安心感を与えるとともに、悩みや困り感を抱えていながら相談できない児童を把握し、教師側から声を掛ける必要性を感じました。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	233	85	16	6	86.8	90.2
保護者	180	123	14	1	83.9	88.0

⑤教師は、学習内容が子どもによく分かるように、熱心に授業をしている。

児童・保護者とも下がりましたが、「分かりやすく丁寧に教えてくれる。」といった意見が多数ありました。本校の児童は、学習意欲が高く、課題に対して一生懸命取り組みます。今後も、基礎的・基本的な内容の定着はもちろん、「主体的、対話

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	273	55	11	2	91.9	93.6
保護者	185	118	14	1	84.4	87.8

的で深い学び」をキーワードにした指導法の工夫・改善に努めて参ります。

⑥教師は、「やるべきこと」や「やってはいけないこと」など、人として大切なことを子どもに指導している。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	295	40	7	0	94.7	94.6
保護者	211	99	7	1	87.8	91.0

児童・保護者とも、良好な結果でした。「当たり前」の事を当たり前にするを合い言葉に、長年ぶれずに指導してきた成果と言えます。中には「みんなの将来のことを考えてくれている。」と書いた児童もいました。指導を素直に受け入れられるところが本校の児童の良さでもあります。自分自身で正しく判断し行動することができるよう、今後も、毅然とした指導、心を育てる指導に努めてまいります。

⑦教師は、子どもの「よいところ」や「努力したこと」を適切に認めている。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	255	72	12	3	89.8	90.6
保護者	199	104	14	1	85.8	86.3

児童・保護者とも、良好な結果でした。人は誰しも承認欲求をもっています。それが満たされたとき、自分への自信や、さらに良くなるようとする意欲が湧くものです。しかし、よい結果が出たときだけ褒めていては、児童は結果の善し悪しばかりを気にするようになってしまいます。今後も、その子自身も持っている良さや努力の過程、その子なりの成長に目を向け、認めていきたいと思えます。

↓昨年度と質問を変えました。

⑧お子さんは、あいさつや返事がよくできる。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	160	126	42	13	75.7	
保護者	103	161	49	6	71.1	

挨拶については、今年度の重点課題の一つでしたが、大きな声で挨拶できる児童がいる一方で、「恥ずかしくてできない。」と答える児童もおり、できる児童とできない児童の二極化が依然として見られます。また、今回「返事」を加えたところ、昨年度より達成度が大幅に下がりました。挨拶と返事をいつでも当たり前に行えるよう、ご家庭でもご指導をお願いします。

↓昨年度と質問を変えました。

⑨お子さんは、相手の気持ちを思いやり、助け合うことができる。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	180	127	25	9	80.1	
保護者	145	159	15	1	80.0	

仲のよい子には親切にしますが、そうでない子には見て見ぬふりをしてしまうことが見受けられます。また、「しようとは思っているけれど緊張してしまう。」と回答した児童もいました。誰に対しても親切にしたり、誰とでも協力したりできるような働きかけをするとともに、大人が手本を示さなければと思いました。

↓昨年度と質問を変えました。

⑩お子さんは、やらなければならないことは最後まで頑張ることができる。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
児童	209	93	33	4	83.2	
保護者	137	147	31	4	76.9	

児童と保護者との差が見られます。特にAとBの割合が顕著です。児童はやっていると思っているのに、保護者はそう捉えていないようです。大人から見て不十分であったとしても、まずは取り組んだことや努力を認めることで意欲を高め、徐々に大人の要求度までレベルを上げられるような関わりが必要かと思いました。

⑪学校は、適切な教育方針を立て教育活動を進めている。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
保護者	151	93	9	1	85.0	85.0

⑫懇談会や祇園小だより、学校ホームページ等を通して、情報提供が適切に行われている。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
保護者	155	87	10	0	85.8	86.7

⑬子どもの成長のために、学校と保護者・地域が協力し合っている。

R1	A	B	C	D	達成度	H30
保護者	145	93	13	0	84.2	83.3

本校の教育方針については、国や県、市の動向を踏まえ、児童の実態に基づいて立案しております。今回のアンケート結果や教職員による自己評価をもとに、よいところはもっとよく、課題については充実・改善に向けて、様々な意見を聞きながら検討していきたいと思えます。

また、保護者や地域の皆様にもっと学校のことを知っていただけるような、児童が地域の良さをもっと感じることができるよう取組を今後も続けていきたいと思えます。

子どもは地域の宝です。次代を担う子どもたちが心身ともに健全に成長し、よりよい人生、よりよい社会を築くことができるよう、学校・家庭・地域が連携し支えていけたら幸いです。

